

# 世界遺産でつながる日本とインド

和歌山県商工観光労働部観光局観光交流課

## 2つの世界遺産

和歌山県とインド共和国西部のマハラシュトラ州は、2013年10月に観光交流・食品加工・企業間協力に関する覚書を締結したのを契機に、世界遺産を保有するという共通点を活かして交流事業を続けてきました。

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を有する紀伊山地は、古来から神道の神々が鎮まる特別な地域と考えられてきました。また、仏教の修行者も深い森林に覆われたこれらの山々を阿弥陀仏や観音菩薩の「浄土」に見立て、この山地を修行の場としました。

その結果、紀伊山地には、起源や内容を異にする「熊野三山」、「高野山」、「吉野・大峯」の3つの霊場とそこに至る「参詣道」が生まれ、都をはじめ各地から多くの人々の訪れる場所となり、日本の宗教・文化の発展と交流に大きな影響を及ぼしました。

こういった文化と歴史を有する紀伊山地の霊場と参詣道は、2004年にユネスコの世界文化遺産に登録されました。中でも和歌山県は3つの霊場のうち熊野三山と高野山、6つの参詣道のうち4つを有しており、参詣道として最も栄えた中辺路も、和歌山県内中央部に位置します。



霊場の1つ高野山、今年開創1200年を迎える

マハラシュトラ州の世界遺産、アジャンタ石窟群とエローラ石窟群は、州の中央部、オーランガバード市の郊外にあり、アジャンタは仏教石窟群、

エローラは仏教、ヒンドゥー教、ジャイナ教の寺院石窟群として紀元前1世紀から紀元10世紀にわたって建築されました。

アジャンタ石窟群の個々の石窟は、鮮やかな色彩の壁画で彩られたものが多く、中でも古代インドにおける絵画の最高傑作といわれる壁画「蓮華手菩薩像」は、その後の仏教絵画に強い影響を残し、7世紀に描かれた法隆寺金堂の壁画も「蓮華手菩薩像」の影響を受けたといわれています。



アジャンタ石窟群の「蓮華手菩薩像」

一方、壁画の完成度の高いアジャンタ石窟群に対し、エローラ石窟群は寺院建築としての評価が高く、中でもエローラ石窟群のほぼ中央に位置するカイラーサナータ寺院は、一枚岩をくりぬいて造形され、間口46m、奥行き80m、高さ34mという彫刻物としては世界最大の規模を誇ります。またエローラ石窟群は3つの異なる宗教の石窟が合計34もあり、それぞれの石窟が近接し造成時期も重なっていることから、当時のインドは異なる宗教が共存していた社会であったと考えられています。



エローラ石窟群のカイラーサナータ寺院

## 協力覚書の締結

こういった世界遺産を有する和歌山県とマハラシュトラ州は、2013年10月9日に、観光分野と農

産品と食品加工の分野で相互協力の覚書を結んだことは前述したとおりです。この覚書は、2014年1月にインドを訪問した安倍首相とインドのシン首相との共同声明でも取り上げられ、「両首脳は、マハラシュトラ州と和歌山県による観光と投資分野での協力覚書の署名に満足の意を表明した」と声明文に盛り込まれました。

観光分野では2014年6月24日、世界遺産があり、かつ付属するセンターがあるという共通点をもっていることから、和歌山県の世界遺産センターとマハラシュトラ州アジャンタ石窟群に隣接するアジャンタビジターセンターが、相互PRや人的交流を目的とした協定を締結しました。



センター同士の協定調印式

さらに交流事業の体制作りとして、2014年8月に和歌山県の職員（1人）が、マハラシュトラ州オーランガバード市に派遣され、和歌山県オーランガバード事務所を開設しました。クリアの調査によれば、インドに常駐職員を派遣している自治体は全国でも和歌山県のみであり、派遣された職員は現在、州内を東奔西走し和歌山県をプロモーションすると同時に和歌山県窓口として交流プロジェクトを手掛けています。

## 交流事業の推進

まず両センター同士の協定後具体的な交流事業として着手したのが、和歌山県世界遺産センターとアジャンタビジターセンターでの相互の世界遺産展示です。県世界遺産センターでは2015年2月に展示品が完成し、地域の方々をお招きして記念式典を執り行いました。また同年3月にはアジャンタビジターセンターで「紀伊山地の霊場と参詣道」の展示品が完成し、こちらで



式典で祝辞を述べる在大阪・神戸総領事館クマール副領事

も多くの方々に参加いただき記念式典を執り行うことができました。この一連の事業ではクリアの地域国際化施策支援事業を活用しました。

さらに3月のアジャンタビジターセンターでの式典の際には、和歌山県世界遺産センターの職員も参加し、式典後、今後の交流事業について協議を行いました。世界遺産は観光資源としての活用が見込まれると同時に、その保全が両者の課題として認識されることから、今後は研修生や技術指導者の派遣を通じて、相互の保全技術向上を図っていくことで合意しました。



アジャンタビジターセンターでの参加者の記念撮影

## 世界遺産を通じた今後の交流事業

今後の交流事業としては、2015年5月に「インド憲法の父」と言われるビームラーオ・アンベドカー博士の像が和歌山県の高野山に建立されます。アンベドカー博士は1947年のインド独立後の初代法務大臣として憲法を創案しただけでなく、カースト制度に基づくインド国内の差別と闘う反カースト運動の指導者としても知られています。1956年には博士の指導の下約50万人の被差別者が仏教に改宗し、これがインドにおける仏教復興運動につながりました。

人類普遍の価値をもつこういった業績を、和歌山県内でも広く知ってもらいたいという両地域関係者の思いから、世界遺産の霊場の1つである、高野山で像の建立が決まりました。5月の建立記念式典にはマハラシュトラ州からも大勢の方々にお越しただけのことになっています。

ユネスコが提唱する世界遺産とは、地球の生成と人類の歴史によって生み出され、過去から現在へと引き継がれてきたかけがえのない宝物で、人類共通の遺産として未来へ伝えていくものです。和歌山県とマハラシュトラ州の交流事業においては、こうした理念を中核に据えつつ、今後さらに大きく展開させていく予定です。